

# フットボールのゲーム分析における現状と課題

## The present condition and problem of the game analysis in football

1K04A141-3

高橋 裕之

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 石井昌幸先生

### 序論

現代のフットボールは以前に比べ、組織的になったと言われる。DF ラインから FW までの距離がとてもコンパクトに組織され、狭い地域でのプレーが要求されるようになった。そして、攻守の切り替えが以前に比べて速くなり、スピーディーなゲームが展開されるような現在のスタイルのフットボールが定着した。

このように、組織的な現代のフットボールの世界では、選手個々の技術や体力、チーム全体の戦術や組織・体制とともに、ゲームを研究・分析し、選手・コーチに課題をフィードバックすることがとても重要である。

そこで本研究では、主に日本で今まで発表されてきたゲーム分析に関する文献をまとめ、歴史を辿りながら整理し、本当に効果的なゲーム分析とはどういうものかを明らかにすることを目的とした。さらに、分野別に体系化することで、これまでに手のつけられなかったゲーム分析の分野の発見や、今後、日本のゲーム分析はどういう視点を中心に進めればいいのかというものの指標を作ることを目的とした。そして、海外の文献とも比較することにより、日本のフットボールのゲーム分析は世界と比べ、どの程度の位置にいるのかを明らかにし、今後、日本のフットボールのゲーム分析はどのように進むべきかを考察することを目的とした。

### 方法

2007 年 11 月 1 日までに日本で発表されたフットボールのゲーム分析に関する文献を対象にする。それらの文献を歴史的な流れを考慮しながら、分析の内容からセグメンテーションすることで、これまでのゲーム分析の傾向を探る。そして、これまでのフットボールのゲーム分析の傾向から、これまでに行われたもの、行われていないものを明らかにする。

また、海外の文献とも比較する。日本よりフットボールの文化が進んでいる海外ではどのような研究・分析が行われているのかを明らかにし、日本のフットボールのゲーム分析が現在どのような位置にあるのかを明らかにする。そして、これから日本のフットボールのゲーム分析がどのように進むべきかを考察する。

### 結果

フットボールの特性上、分析の種類は大別すると

攻撃に関する分析と守備に関する分析の 2 種類に分けられた。そして、現在までのフットボールのゲーム分析の文献を研究の種類によって分類した結果、シュートに関する分析、選手の移動距離に関する分析、ディフェンスに関する分析、ゴールキーパーに関する分析 4 つの種別に分類できた。

また、この他に 4 つの分類に当てはまらない文献も少ないが確認された。しかし、その数は少なくほとんどの文献はこの 4 つの分類のどれか、または複数に当てはまるものであった。

### 考察

シュートに関する分析、選手の移動距離に関する分析、ディフェンスに関する分析、ゴールキーパーに関する分析、そしてその他の分析を考察した結果、シュート以外の決定機が分析対象にされていないこと、その時代のフットボールの流れの中で考察を進めていく必要があることなどが示唆された。

また、日本と海外の分析の文献を比べた結果、日本のゲーム分析と海外のゲーム分析とでは、その分析の質という点において大きな違いが見受けられた。日本のゲーム分析の文献には、調査対象が複数またがっているものも見受けられた。海外の文献にはそのような形のものは見受けられず、ほとんどが 1 つの目的に対し複数の分析項目を立てその 1 つの目的を分析していた。よって、日本のこれからのフットボールのゲーム分析においては、よりゲーム中の細かい状況を設定にし、より詳しい分析を進めていくということが望まれる。

フットボールのゲーム分析は新たな段階に突入したと言える。以前では分析の対象になっていた項目が、現在ではリアルタイムで記録され、速報で提供されるほどである。よって、これからのゲーム分析においては、与えられたデータを基にどのような視点で分析を行うかがとても重要である。つまり、質の高い分析を行うために、分析者はフットボールに対する理解をより深める必要があると言える。そして、そこからフットボールのゲームを左右する要因・本質を見極めて分析テーマを決定し、考察することがこれからのゲーム分析では必要である。